

2. 整備事業
I 産地競争力の強化に向けた取組用

(栃木県 平成27年度)

市町村名	事業実施主体名	メニュー (対象作物・畜種等名) ①	成果目標の具体的な内容	事業実施後の状況①					成果目標の具体的な実績	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業主体の再評価	都道府県の再評価	備考	
				(基準年) 被災前22年度	1年後 (平成24年)	2年後 (平成25年)	3年後 (平成26年)	目標値 (平成26年度)				達成率	交付金	都道府県費	市町村費					その他
足利市	足利北部イノシシ対策連絡協議会	鳥獣被害防止施設 水稲、野菜イノシシ	農作物被害の減少	3,006千円	1,169千円	2,887千円	4,357千円	2,760千円	-549%	前年度よりも被害額が大幅に増加した。平成23年度と比較においては減少はみられた。目標値に若干届かなかった。	鳥獣被害防止施設ワイヤーメッシュ柵イノシシ用1,609m	1,002,393	1,000,000	0	2,393	0	平成25年3月11日	侵入防止柵の接続による機能向上が図られ、防止対策は進んでいるが、鳥獣の生息数増加がそれを上回るためか、市全体としての被害額は減少しなかったが、整備地区では被害防止効果が表れている。	捕獲体制の強化とともに、被害防止柵を整備するなど、地域住民も参加した被害防止対策に積極的に取り組んでいる。しかしながら、野生鳥獣の生息域拡大による被害の増加を防ぐことができなかった。	平成23年度明許繰越
佐野市	佐野市有害鳥獣被害対策協議会	鳥獣被害防止施設 水稲、野菜イノシシニホンジカ	農作物被害の減少	5,534千円	10,991千円	7,076千円	14,114千円	5,080千円	-1890%	目標達成には至らなかったが、平成24年度に比べ平成25年度では被害金額が減少した。	鳥獣被害防止施設ワイヤーメッシュ柵イノシシ用3,570mイノシシ・ニホンジカ用8,490m	6,034,833	5,000,000	0	0	1,034,833	平成25年3月5日	本事業でフェンスを導入したことにより、イノシシ捕獲頭数の減少がみられた。また対象地域ではフェンスを維持管理するために定期的な見回りや草刈りをするなどで、獣害対策の意識向上が図られる等、一定の効果が認められた。	捕獲体制の強化とともに、被害防止柵を整備するなど、地域住民も参加した被害防止対策に積極的に取り組んでいる。しかしながら、野生鳥獣の生息域拡大による被害の増加を防ぐことができなかった。	平成23年度明許繰越
塩谷町	塩谷町野性鳥獣対策協議会	鳥獣被害防止施設 野菜・小麦シカ・イノシシ	シカ・イノシシによる農作物被害の防止	2,983千円	17,546千円	4,638千円	8,428千円	2,744千円	-2278%	目標値には及ばないが、震災後(H24)に、17,564千円まで増えた被害額が4,638千円まで減少した。	鳥獣被害防止施設(シカ、イノシシ用金属フェンス)の設置3,940m	9,062,000	9,062,000	0	0	0	平成25年3月25日	震災後に被害が急増(17,546千円)し、捕獲や草刈りなどの自衛措置により対応し、以降被害は減少しているが、農作物被害額の目標を達成できない状況である。	協議会を中心に、取り組みを展開し、住民参加型の対策を進めてきている。しかしながら、野生鳥獣の生息域拡大による被害の増加を防ぐことができなかったため、目標値は達成できなかった。	平成24年度第1号補正繰越

都道府県平均達成率	-1572%	総合所見	生息域が拡大しており、捕獲対策に加え、防除と環境整備が重要である。柵の整備を行った地区は被害対策の効果があらわれてきているが、未整備の地域では被害が増加しているため、防除対策の取組を他地域へ波及させていく必要がある。また、柵を設置した後の維持管理も重要であり、柵の周囲の環境整備と合わせ、柵の点検整備も必要である。なお、耕作放棄地も増加していることから、営農についてもどうするか等も含めた地域での話し合い、対策が必要となってきた。今後も、専門家の指導アドバイスを取り入れ、研修会、現地診断を実施したり、獣害に強い地域の体制づくりにも力を入れ、被害減少につなげていく。
-----------	--------	------	---